

2024. 8. 30

北九州市教職員組合にゆうす



「8・6平和のつどい」開催される！その1 テーマ「だれの命もうばわせない～戦争を知らずしないと戦争はいつまでもなくならない～」

ヒロシマ、ナガサキに原爆が投下されて79年が経ちました。「被爆者健康手帳」を持つ人は、3月末で10万6825人、「被爆者」の平均年齢は、0.57歳上がり、85.58歳となりました。前年より0.57歳たかくなりました。近年は、1万人に迫る減少ペースが続いており、被爆者の高齢化とともに被爆の惨禍をいかに次の世代に「つなぐ」かが課題となっています。

8月6日、ウェルとばた大ホールにて、「8・6平和のつどい」が361名の参加者を迎え、開催されました。コロナ以降、久しぶりに300人を超える参加者でした。

パリでオリンピック、そしてパラリンピックが始まりました。しかし、2022年のウクライナ侵攻、23年のパレスチナ自治区ガザ地区への攻撃と、「平和の祭典」の裏側では、世界各地で戦乱が続いているのが現状です。また、あまり報道されませんが、スーダンでも度重なる紛争により飢餓が深刻で、飢饉(ききん)に近い状況になっているそうです。今も世界の各地で尊い命が奪われ続けているのです。日本では、皆さんもご存知のように有事に備えて南西諸島への自衛隊配備が着々と進んでいます。

日本にいる私たちは、パラリンピックを楽しみながらも、心の片隅には「世界は平和ではない」「毎日命が奪われ続けている」ことを忘れずにいたいものです。

参加者からのメッセージを紹介します。

○ 今、学校の探究活動で北九州市の戦争の事について調べていて、今回は先生の紹介で平和のつどいに参加しました。朗読劇や読み聞かせを通して、空襲当時の状況などを知ることができ、戦争について考えることができました。動画では、自分たちが平和に暮らしていることが普通ではないということを改めて実感しました。特攻については、知らないこともあり、とても勉強になりました。歌は大人も中学生も良かったです。私たちが行っている探究は、主に北九州市の当時の空襲や爆薬庫などを被害者側ではなく、加害者側の目線で調べています。曾根にあった弾薬庫など詳しいことを知っていたら知りたいです。(八幡高校)

(10代の参加者からのメッセージ)

○ 日本は「戦争にならない」という根拠のない自信が心のどこかにありました。しかし、冷静に考えてみると九州でも有事の際の訓練をしていることを考えると、日本は戦争とは無縁ということではないと思い知りました。平和の大切さにいつも気づき、平和であり続けるために、子どもたちと一緒に命の大切さなど身近なしあわせの大切さを見つけていき、戦争が二度とないような社会をつくりつづけていきたいと思いました。(西小倉小)(20代の参加者からのメッセージ)



2024年度司会者

(左)古賀 明さん(教員)
(中)白濱美咲さん(高校生)
(右)原口 祐さん(教員)

『8・6平和のつどい』によるこそ

戦争は学校を戦場にしました。
戦争は子どもたちから家族を奪いました。
戦争は子どもたちから未来を奪いました。
この過去を、この歴史を私たちは語り継がなければなりません。
多くの悲しい事実にごそ
平和な未来への道筋が託されています。
戦争は、平和の中から生まれてきます。
戦争は、人間の「無関心」と「他人事」を好みます。
戦争の足跡を見逃さないでください。
戦争の足音を聞き逃さないでください。
皆さん、どうぞ命と平和の大切さを声に出していきましょう。
この会場を未来への希望でいっぱいにしましょう。

「8・6 平和のつどい」パンフレットより

NO.20につづく

わからないこと・困ったことがあったら… 何でも気軽にお問い合わせください！



///JTU 北九州市教職員組合 〒802-0072 小倉北区東篠崎3丁目4-1

E-mail: jtuhokyu@lime.ocn.ne.jp

北九州教育会館 TEL (093) 953-0381

